渭江詰 一

盧元情撰

へ5
1289
1

門 利
1289
巻 1-5

サウ弘キテ

六冊

京都帝國大學圖書

口牒

廬元坊編

明己年相當先師七回忌ニ付則
洛東雙林寺ニ并ニ祖翁之石碑ニ而造之
鑑塔ヲ上ニ取越シテ亡名八月十六日ニ而三月
十六日營ミ之畫夜之法會ヲ偈ニ因テ茲
歌仙之六句表示ニ配リ花鳥ノ之八題ヲ
梅鶯柳慈櫻
雉蛍花雲雀 尤モ不ル及ハ述ルニ追ヒ思ノ之情ヲ

固不嫌神祇釈教以下之名目依
其国文所連愛之多少而幾表成共
乞請申度候別尓天一唱之發句者
世季子之内何成共御物數奇次第加入
可申候尤在則先師者生前尓嚮言果花
西花之名来三越者自雁之往来舊交之
固麼餘多也乞則于茲寄渭樹江雲之
思而名渭江話矣將思之批一集尓者

誠尓慮元報師恩之寸志也耳

恐惶頓首

音保丙辰季秋日

諸國

俳諧御連衆中

梅　武蔵江戸　若夕庵連中

雨水

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雑　江戸　小石川

涼花

高砂の新しうたくまに　紙
四へみるよかなむ一刷毛
西りの笠にたまれた雲吹て
詰雲よ俤をはうれすり
はるの霞ふく　鶯なれ聲ひ
れをとかるあるれ　第日

梅　江戸小石川連中

鶯とあるを宗の日新や梅のむ　寸長
ぶへうきるる　沼のきれ　鶯堂
春立入の　ぶひう集に繋結て　履端
筆の世話　たれう言　琴松
西東門係　月の　亀　吟雨
林　ひるる　紅扉のてり　百化

橘江戸守れ葉下連中

九重の雲とあらそふ　方長

ゆりいたすの下も遠く　許之

玉屋敷の門を飾りて出ぬる　杏星

さよふ笠ふる新の雨　松丈

名月の十五日も七日も　桃隈

杯の蓮れ　ふる行くまる　池子

柳江戸水雲居連中

柳あをとふたてふる　陸羽

沼こしくく移の　山蕉

ちるさよれ蓬屋に言ふ二三て　惠牧

自惜も新れ方てい　羽

月も今宵の辻に踊り　蕉

西れも帰ふ　灯　叡

雜　江戸品川連中

星暁

晨雲に山の姿は絶のかなたに
佐賀の市にはれおさまる　山桜舎
出雲の新し小袖に遠へて　橘下
初物屋の売て　如化　星雲
夕月の新しくとなる　酒　豊水
蒔の花とうけて菜へし　魏峯

榴　江戸同席連中

廣い世をとんかさを的や　初さら　沙流
陽さしはたをの　吸角の　弾　竜筏
世界をの軍人くらべて　遊舎
宗七は角を　堅　新仁　反　琴杖
こう月とはうさやかかる　竹　菊　伯高
菜七　はうく　蒙七さく　魏峯

雲雀　江戸品川連中

やまひこあらそふ里の雲雀哉　長葛

鳥帽子よりとかるる雲雀　竹里

雲かすみ雛の初孫よろこぶて　玄芝

小車者のまくらもいかに　芝園

雲の月まくれぬ　拙一　沽我

頭の中へ入てうれの雲雀　桃雪

梅　江戸品川連中

梅一本咲残りしかむかしの事　鎌義

日も長義に赤い蕾入　可碩

あくるあるれよりふるい行かんく　全

梅の香吹とをゆてあけうよ　義

かくれも洗て月の氣　全

かくれて仕よ蕾の梅　碩

雑　江戸　お良連中

紅葉や星とまがへる花の蕾　文東

まつかぜと云の名錦　羽雁

心苔の名おいつれと指れて　夕林

比良いそれる国う国ふれる　丈羽

乱れて咲る高山日和の賞ふ　青町

猿まつり猿心寒の起つ　百羽

蕪　江戸　芝連中

点ぜふ少へ国に来るつて色れ　芋国

笠去ぬくと出かけりれ時　茶渡

茶係も日日を抱のをられて　酒江

こちれ美ひい茶の虎渓也　巴陵

清やと指し月を内服ふ　乙湖

鬼と子先あるく足事ふ　青雅

梅　江戸　諸家下

脇　雲英法師

脇なとひらきさえてや梅のむ

末の芽しも咲く咲はひ

梅はれ衣敷よ猪しをとて

ひらけ春わのちるぬ　ちるり

くはうに月のもりやかくと

まふ月かけてうる夏哭

花多八郎　江戸松籟居連中

其一　麦阿

一夏はくはの留ヤ二年鶴

まる神明しをを　軍人　秋調

涅槃会よ法ヒ各の立て　琴堂

寒い寒法のるる新　猪　十午

初月し差て　肩れをくと　敲氷

きはれ人　萩し落し　谷水

其二　乗じ

雲や紫垣まさる春のひ　ゆく
猶ほさてと流れの山々　雪　松封
わるまゝ自制よりもやすこゝて　水宿
人はけて書物の目さめ　左栖
きくことゝ千年の響　雪の月　西奴
野の松よりも春降て　雪　湾雲

其三

門をひらけば年の御　行外
文を清よ　顔れ　ゝ　張　横琴
咲ゝ　弾　神　ゝ　千林
いくい　ゝ　作れ　ゝ　水　俊　御陰
書うよ　月うよ　ゝ　仲百　破　抱雲
たん多達欲い　詩　ゝ　ひ　古道

其四

紀猿の巣うゝ高くなりぬれども　百拙

柳にあふ門の元一時雨

方丈の高き夏山茂て　机江

野ゆくに人なつかしい　鈴　樓　臺牛

はるの色信濃の月盈枝

ねこしたゝと語れ殿今　執業

其五

おもひもよらぬ花の山　十午

秋の夜ゆゝしきまで月を　抱雲

うゝ夏の沖暗し青い硯味噌　谷水

おもしろい嘘ばかりしまて　竹外

秋灯とはなれい月よ　松封

柳に松をまれと　位　楊　水宿

題六

雉の尾はなれとなるかの組紐
はるしるべとなれる国の剣 敲氷 柳條
油さしうんかれの長きて 教業
公仏海よりきれに連 百枳
月も今さりかわりて川むし 晴雪
砧はうつに あもはなれ 翠堂

題七

蓮はなやくれてしるるあり
八幡はうりの蜜と妹 盈枝 童牛
雲のたちをいとる信の鎌橋 雪爽
嫁とも代わる来ぬよわるし 麦河
月もはるまれ住るのかけるり 横琴
いとく天破の金板と義業 千枝

其八

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

篤　尾張　名古屋博南連中

雪やあるる　庭れも　雪吹　以之

俤正谷の　枝に　虎杖　多中

雪かるれ月も　眺の　雪を　比誰

茶ほけ　吟ずるを　碓下　和碩

高栗ゝあるれの　ゝ　一　丁牧

松ゝ　配る　雪ゝの　風信　永和

柳

生垣を　乾ゝの　柳　多　和碩

新地の　ゝを　れも　苗代　比誰

出るれ　雨かへる　毎の　足遠　以之

癒の　かを　も　南　多　丁牧

月ゝ　ゝれ　も　かゝの　月を　竹夜

ゝれ　の　ゝも　ゝく　多中

蕪

流をとゝのへて流るゝ水のゆくへかな　平夜

亭〻と遠に枕のくもりて　丁牧

炉をぬる〻ほい煙雲に移り行て　和頃

内ゆゑてもりさあるこゝろの情　如之

月と雖ひかりの　箴れ行　高中

あふもうるふ行もり　比誰

櫻

猶の目も暮れ行れ空かな　鳥中

霞む　こゝろの　ふも　日暮　如之

訪こゝろあまり遠れ　変行て　丁牧

流れ流の　たゝも　松川　平和

白雲も　こゝ　屋の　枕れ　月　比誰

雲こゝ　枕れ　こゝ　雲　和頃

雉

岩角よ芝や彼れ
流しおろるに
紅葉へ茨入陰の
被の袖よかくる
ちらはらはらん
向のけしめを鎌

草花

草のひや畠陳い
布掛杵よめる
捨ておきて国のま
あるを訪ひて話
西ひしに雅いけな
紫花の高なれ

葉ノ花　名古屋　何芳連中

草のむや　池月和の川むら　貞旭

雨ふる　雀　ぬれ羽ふる　たのゐる　他　菊里

夏木のうちにうの花かくれて　曽由

うぐひすの　ゐるのゝ奥ふる　寺　加

踊りもうたれて　月ぬる　東　子

菊と　ゐるのゝ　ゐれ　内町　由

櫻　名古屋

かゞみと雲に　ぬれて　さくら　ゐ　十阿

山の　位も　まゝ　格　ゐ　以京

稲荷へも　四　詰　ゐの　神　ゐて　全

花氣も　ひんな　西　なる　ゐる　阿

ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐて　月の　ゐ　全

望を　鄙　く　と　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　京

燕　名古屋　戸田町連中

[illegible]　集古

[illegible]　[illegible]　[illegible]　全五

[illegible]　[illegible]　立和

[illegible]　[illegible]　古

[illegible]　[illegible]　五

妹入の馬[illegible]　[illegible]　和

雲雀　名古屋　城東連中

[illegible]　[illegible]　巴雀

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　阿文

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　試中

[illegible]　[illegible]　[illegible]　可祐

[illegible]　[illegible]　入くれ　茅布

[illegible]　[illegible]　[illegible]　菊卷

櫻　名古屋　城東連中

一ちらちらに軍〳〵の移　菊邑

千綱かすむ　月の陣　山　隼紅

俤の春ふまれた雪　竹鼎

折ふる雪の　嘯も　ちり　巴雀

今まさと　いふもふれ〳〵　おぼ　八恵

哀れ　新よ　ふい　森　ゆ　紫巾

櫻　伊勢　桑名連中

雪ふる〳〵ちりぬれば　麦士

雪も雪の　名に　ふれと　八調

称宣を　いまの　雪　特　衣み　仝

よ〳〵に　傾を　片　雪の　弦　士

此入新よ　姫　櫻の　ふ　ぬ　仝

こゝを　月も　雪も　雪の　中　調

篝

楽名

[illegible]

指之

[illegible]

[illegible]

[illegible]

何[illegible]

柳楽名

[illegible]月の[illegible]

東城

[illegible]

[illegible]

[illegible]

葉花

葉のとやはらかなりけり春の後　晉什

ちるまを惜るよりのよこ雲　一架

月もまこそ行のむしとなるべて　宇均

人もまこふ知のうらの足　帆十

代宮もおくむ所拍のちくり也　曽格

雲さも　はるの拍の　雲祝

雲雀あれの鳴るもみるよ夕雲雀　燕里

茶作るの山はれちるぬ山道

出雲の後くるるちるの片作て

たくと入も　ほれ　ちる　拍

遠ほれるまほ作とは春月の拍

ちみ　重ア　へかるれ　拍れ

柳　四日市　鳥川客連中

[illegible]　玉之

[illegible]　[illegible]　柳　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　

梅　大津連中

梅ぬやかうめて見ても顔の梅　宰陀

日陰よりさくの端ぬくふる　序父

田螺り流よ街れくるくて　菊拙

自まの竹とそもて垣をく　千列

臺ばれまるる白ふ十三和　呉品

嶋のかくれてちるる出る　波青

萱　山城花洛連中

萱は有よまるまを引ぬ　花孚

柳よもちよ　俳の干物　挂例

萱まるに咲中れ張れ秘ちて　杜吾

俳ぐ元後も　くひ　和也　一推

梯うち一梯さけて　まの月　素仲

萱は稲よ　虫もいろく　流美

燕　山陰洛陽

山只

庭信のお宿よ春れけるかな　仙

梅ゆきれけるあるまるよ

一林主翁の梅も　ちきかて

ちよいなかるを　うらの青くなん

青竹月　うつ　新うかき新

いりかあれ　伯父も　うを

雲雀　月居　子かね

乗門

仙行

元山よ　新を踏れる　春　仙

まちのはあり　しも千年の　思

出ありい　沖の　様もれ　ふ　ふして

まい　接　俳　よ　柔い　みえる　也

月　ま　を　なり　ろ　ろ　て　て　の　宿

俳　を　い　ち　あ　れ　と　　　

桜

大和郡山

遊葉

ちる桜よ月やたゝふて池の莫
緑えし のゝ芝に花 人
青郭を乱れよ 羽毛に風中あけて
菜よの仕ちよよる 唐笛
元山れゝ流れ お月の 乳
牛し 見れく まれ下崎

菜花 桜津今は

要敬

菜のとや とゝ流れ 川に 祖
ゝ とゝ名ぶも とん 出かゝり 一滴
あゝゝふりを 弦 引 ゝえて 南菜
新 商人の ちゝ れて 呉張
伊野て笛 まゝ れ の 庫 山谷
月 ゝ ゝ れ ゝ れ 素天

梅　伯耆冨山

曙の空やうゑ遠れむ色のお　非吹

ようよりて内へ　まれ　為弱　曲繁

秋をれ沢を縫ふ霧まとて　岷を

俗世の　俗れ　雲ゝ　ちれ　路洋

お芝居の高りを　格の一ちれ　波調

春の日は　ほれ　揺ふ　理史　帯雨

雪　伯耆冨士建中

雪よ　ふれて　忘の　雪　沙白

まつ　もち　雪　咲れ　萩　凡平

雪　寒の　寒　松　雪かね　て　里可

ちの　む　庭　月　ふ　義文

鳥　ゝ　女中の　供れ　肌　杯舟

波　ふ　ふ　濃　萩の　玉朝

柳　伯芳居山

帆をあまたれれば柳水　呉舟
ゑもしらぬの笠よ陽光　一川
一休も結ぶ岩佐を枝ゆれて　柳翠
階子を乳母うけやとの柳　芳多
雪月を恪氣の角い家あり　岑乙
頃をきして　まれ　わ　山　柯寸

燕　伯芳居山

水に流れ手まくらもたれ　百水
柳の曲に　樓の　笛　芳菊
傍正れ妙に処性の出ぬり　て　阿三
梅雨い笑れ　ぬ　紅潭く　東蝶
十六面い庫の屋上にけひ　知釜
出に　ぬ　て　神示　青橋

柳　讃波多乗連中

まを柳の伊達やいのまりてゐ後　筆花
ゐもおぼのとよ柳り氣　芦舟
哉雅よくそひ佐のまかくて　銀翅
咲てゐわ　繁結　九日青
きのけ柳ゐ柳る雅ちと れ　主木
数よ数よ　ゐの市　真桃

柳　讃波多小連中

柳咲や雪ら　湯衣のあひ蒙　湖碎
ぎかてやれ　ぎの　山物　郷悠
伶くい南無を　ぬ　たた　て　汀遥
つれ〳〵　ま　ア　あて　碎
こり月の糸ゐて　くと　箱ゐ　悠
ゐ地ゐ　ゐる　葉ゐ　市　遥

菓花　讃岐郡志連中

菓のむしろやつらわく玉貴　汀語

きるのり和よいあかつきく　湖碎

二の形りゆるとうとうられて　鮮慈

住吉むらるる多の格　語

月新し雪ともいつて雲れと　碎

あのあもも和ひやんてかこ　慈

夢　讃岐円亦連中

双紙あるて竿ゝ作ゝ史や豆揚ゝ　鮮慈

二日灸ゝ出ゝ多ゝ　汀語

初むの仲月に雲も　碎

寒ゝ石ゝ雲ゝ　慈

月ゝ深ゝ行ゝ　語

荒和布ゝ　碎

柳　讃岐ゟ北連中

春ゝ来かゝて高ゆれ柳ゝ　排晤

柳ゝ浪ゝ月の玉眉　湖碎

初年の世ゝ祝宣も化粧て　汀語

雪ゆゝ情ん　眞ゝりうは　梧

町裏ゝ土蔵ゝちゝぬ雪ぬ　砕

市ゝて市ゝ流の春ゝ　語

雪　讃岐観音寺連中

雪も南もたゝてや　浦　日和　日禮

門ゝ柳ゝちゝく　何来　百花

市ゝて百ゝ長に春ゝ　て　仝

里ゝりも佐はれぬ君ゝ代　禮

高ゝゝらまゝゝて月も高ゝり　仝

行ゝゝ嘘てあん　打出　花

雑　周防岩国連中

もの物し侍るとて　紙の端

　　矣云

雲の移れかはれ　谷川　以ト

峡掛の月も　移り居て　文之

夏鶯　ふるまひ　恒の移て　雲五

ふる〳〵同志　紙の端　持も　雨夕

昭後　ふるまひ　時もちる　可夕

雪　　吏そお中津

宇久原のこゝろ　月日や　江の流れ　立下

一株　仰　豆も　紙　〳〵　花菜

多宗松　ゆれ　菊　〳〵　柔雉

仏　上　かつて　筆の　紙　切　字水

短冊も　紙も　ふる　畑畑　石也

小与　ふるくらの　ふれ　侍　布義

柳　豊雲中津

鐘をきて一日をやすむ　柳子　池文

鳴りあるよりもるよりも弦　也末

行われぬ水の行方れまるて　侵水

眠てこそ物の哀中　起されて　江路

面白ぬれ笠のあるひの山ほあき　泉加

もるよ作く奥の神垣　和水

梅　豊雲中津

石工の背中日ひ水　迷ひ　曾弓

笠ぬれ詠し荷るせんまい　芦九

待通て霧の奥ゑ咲て　芦水

新月の葉とくらよ苔実　尤字

雨も笠れて　月の宮　千川

かる笠のうしろ　東雅

柳　豊後日田

[illegible]　時人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雑　豊後日田

[illegible]　吾嵐

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雲雀　なを桜日田

旅宮下沙門
春波

世の中の調子よ[illegible]
桜の色とさはぬを[illegible]月
[illegible]芸の生[illegible]と桜よ[illegible]れて
[illegible]よ屋鶯のあまれ[illegible]焼
大名の[illegible]も和[illegible]く[illegible]
[illegible]れ[illegible]芸弁

桜　豊後芳円達中

[illegible]の軒[illegible]や桜の[illegible]　梅国
[illegible]のあ[illegible]　銀海
星[illegible]伊[illegible]い[illegible]よ[illegible]　西湖
[illegible]　[illegible]　[illegible]懐　[illegible]群
[illegible]の月　玉雲
[illegible]の[illegible]を[illegible]る　蘇　蛙考

肥後小屋連中

[illegible] 嬬谷

胡蝶より猫しめきれ　情　一ヱ

一ッ寸を懐に布団て　長川

[illegible]川とうやし　嬬谷

板の[illegible]細ともわる月の[illegible]　[illegible]女

汁もうわとお撰[illegible]　長川

肥後宇土連中

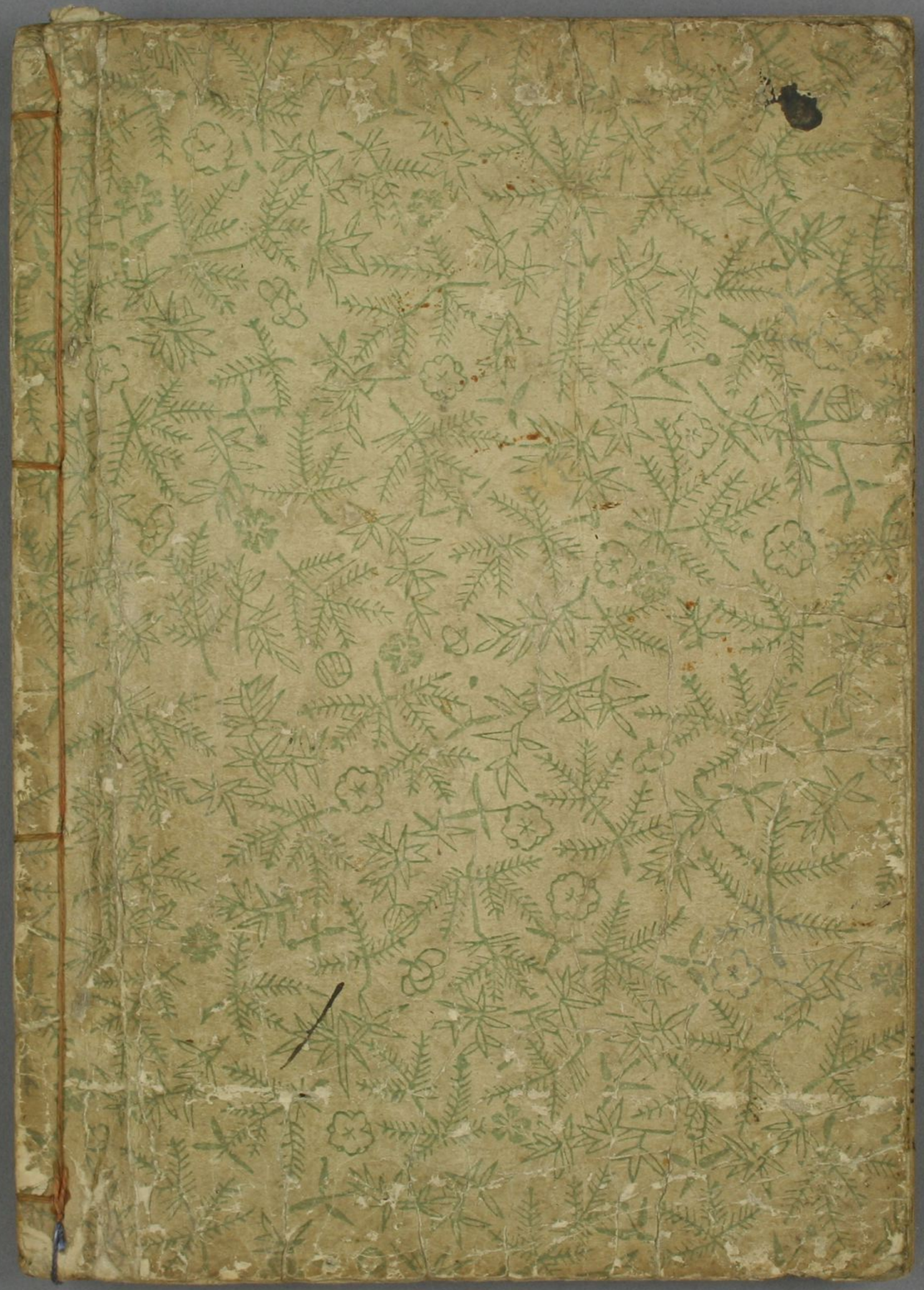
乙語

雪や月ひかれ中にあるさ　蒙呂

年よれおのゝ椿　峡　立平

生而[illegible]の茅入[illegible]て　築化

雪[illegible]れ[illegible]の眼[illegible]れ　魚笠

[illegible]て月い[illegible]新酒　竹鳥

漆よ[illegible]　枕[illegible]石